

# 令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 鳴水 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思っております。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

#### (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

#### 全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

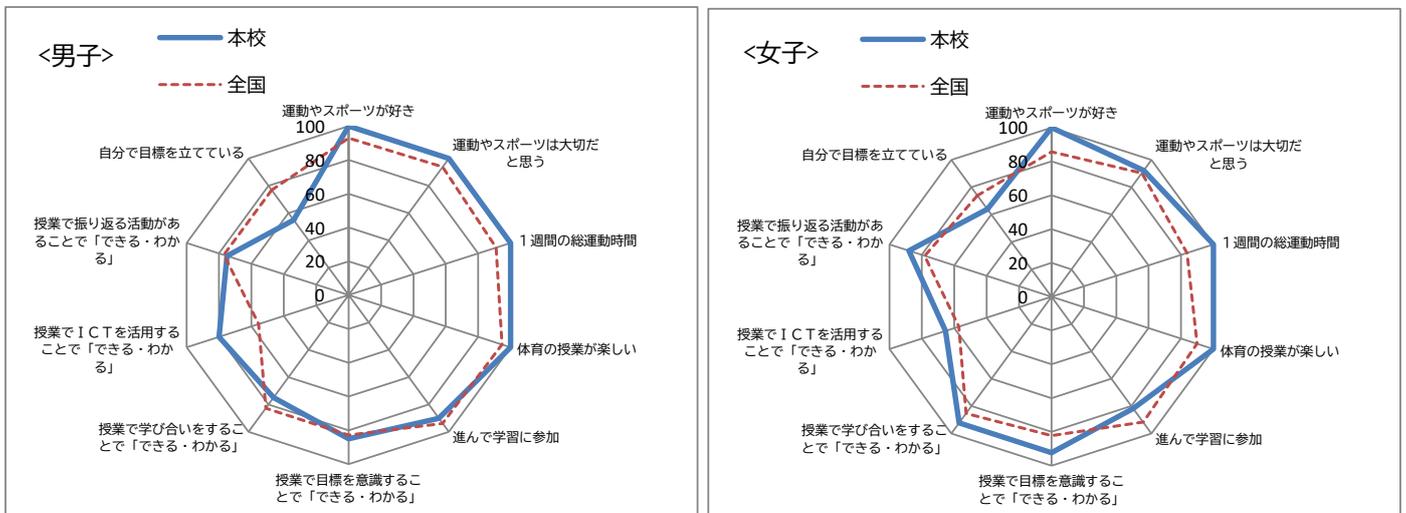
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
本市	16.30	19.17	34.49	40.75	49.29	9.48	152.47	21.39	53.38
本校全国平均以上の種目	○	○	○		○	○	○		○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28
本市	16.35	18.36	38.88	38.78	39.26	9.70	145.97	13.51	55.18
本校全国平均以上の種目	○		○		○		○		○

### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

#### 質問紙調査レーダーチャート



#### 質問紙調査の結果分析

本校独自の調査に対し、子どもたちは、体育・スポーツ・運動を好意的にとらえていることが明らかとなっている。学校生活では、外遊びに積極的であり、下校後、友達と公園で遊んだり、あるいは、スポーツクラブで練習を行ったりする子どもたちも多い。係活動へのICT活用から、やや外遊び離れする子どもたちも見受けられるようになってきた。全体としては、体育の授業は、「わかる」「できる」と感じている割合は高い。活動量を高め、反復することで「できるようになる」喜びを味わえることに重点を置いている。また、苦手であっても友達と伝え合い教え合い、チャレンジする授業に取り組んでいる。成果として、全国平均を上回る結果につながっていると考えられる。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ①「めあて」を明確化し、「わかる」「できる」「できるようになる」授業展開を継続する。
- ②子どもたちで、伝え合いや教え合い、できるようになるまでチャレンジする授業に取り組む。
- ③体育授業においてICT活用を推進する。(技能向上・作戦・自身の記録の記憶媒体として・その他活用含)

#### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ①現在も実施している「体力向上週間」の取組を強化・改善・継続を考慮した計画立案を行う。
- ②実技調査前には職員研修を行い、測定のポイントや方法を周知する。正しい測定の習得を定着させる。
- ③取組の結果を各自の端末内に記録シート(見える化)として保管するなどのICT活用も視野に入れる。